

I N F R A S T R U C T U R E + L I F E + I N N O V A T I O N

2026年6月期 第2四半期 決算説明資料

GRID⁺

株式会社グリッド(証券コード5582)

2026年2月16日

サマリー

売上高 1,315百万円（前年同期比+425百万円、+47.7%）

■ 前期から続く電力や鉄道の大型案件の牽引、新電力案件受注等により、前年同期から4割超の成長

- 電力は、電力需給計画や優先給電指令等のプロジェクトが進展し、682百万円と202百万円増加（+42.1%）
- 製造・運輸は、前期に複数件の配船計画のシステム導入が完了した影響で207百万円と97百万円減少（△32.1%）
- 都市・交通は、鉄道の配車計画や修繕計画案件等の進展で305百万円と209百万円増加（+219.8%）
- エネルギーマネジメントは、電力系統接続の申請支援5件発生により80百万円（前期はなし）

営業利益 278百万円（前年同期比+215百万円、+342.1%）

■ 増収により人員拡充やオフィス移転費を吸収し、前年同期比で大幅な増益

- 2Q末の人員は120名（AIエンジニア76名、蓄電所関連エンジニア3名、営業・管理41名）となり、採用費を含めた人件費は95百万円増加。そのほかオフィス移転の仲介手数料、賃貸料等の増加もあり、営業費用は合計209百万円増加するも、売上高の堅調な推移により営業利益は増加。

計画進捗と今後の見通し 2Q売上高：計画比+3.3% 2Q営業利益：計画比+83.8%

■ 上期は電力・鉄道の順調な進捗により計画上回り、通期業績予想の達成に向け順調に推移。

- 電力会社・鉄道案件が順調に進捗し、新電力案件も加わり上期売上は計画前倒し。下期は電力、製造・運輸、都市・交通においては予算見通し通りに推移する予定。蓄電所の開発案件が4Qに向け売上が増加する見通し。
- 採用活動は堅調に推移し、当初計画の期末従業員数の見通し通り138名になる予定。売上に対する人件費比率も水準通りに推移し、採用費を含めた人件費やオフィス移転による賃貸料が年度末に向けて増加傾向となるが、営業利益は当初計画に収束する見通し。

■ 26/6期2Q決算概況

- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- 事業等説明

前年同期比較

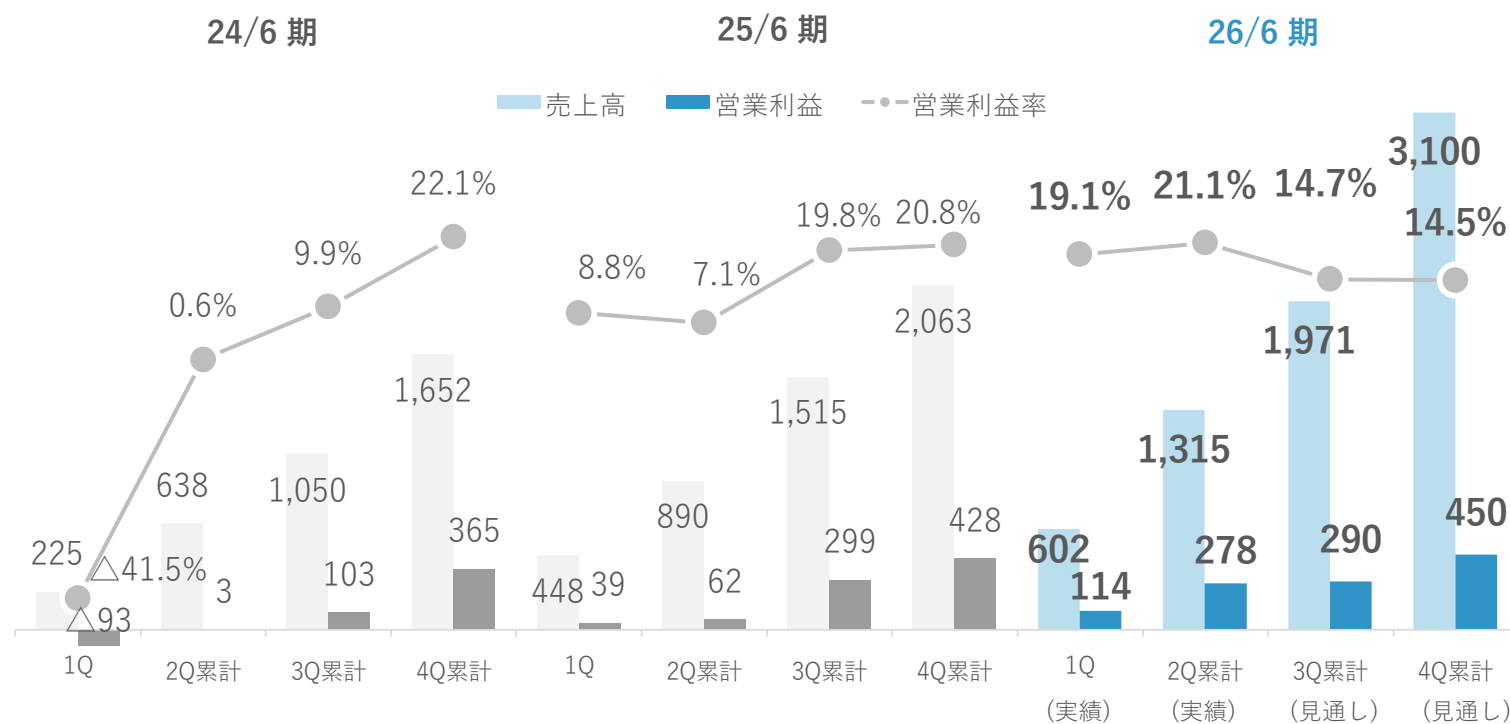
売上高は電力・鉄道大型案件の進捗により前年同期比で47.7%成長。
人員増等による費用増加を上回る増収で**全ての段階利益**が大幅に**増加**。

(百万円)	26/6期2Q (売上高比)	25/6期2Q (売上高比)	前期比	期初計画 (売上高比)	計画比
売上高	1,315	890	+47.7%	1,273	+3.3%
営業利益	278 (21.1%)	62 (7.1%)	+342.1%	151 (11.9%)	+83.8%
経常利益	282 (21.5%)	63 (7.1%)	+345.8%	—	—
当期純利益	186 (14.2%)	38 (4.4%)	+377.8%	—	—

四半期累計見通し

AI事業が牽引し堅調に推移。
通期の業績目標は達成の見通し。

● 売上高と営業利益の推移



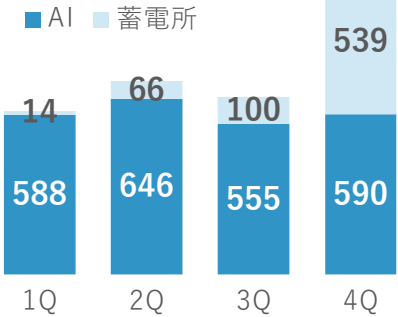
四半期会計見通し

今期のAI事業の売上は四半期偏重が解消され底堅く推移。
蓄電所開発が、新たに下期から収益貢献される見通し。

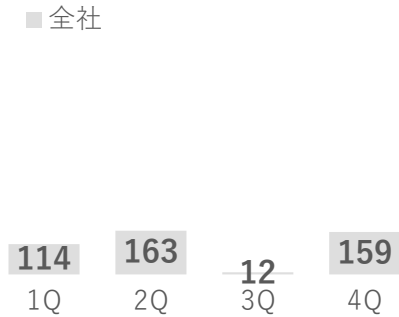
26/6期見通し

(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	602	712	655	1,129
AI関連	588	646	555	590
蓄電所関連	14	66	100	539
営業利益 (売上高比)	114 (19.1%)	163 (22.9%)	12 (1.8%)	159 (14.2%)

売上



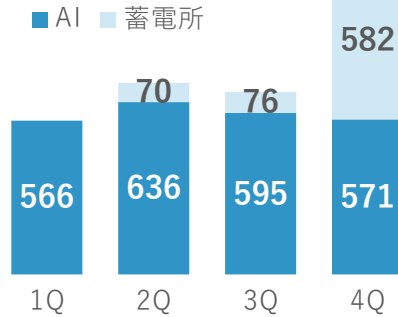
営業利益



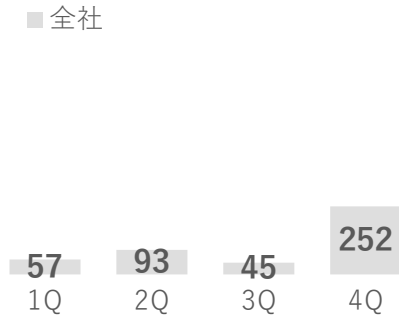
26/6期計画

(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	566	706	671	1,154
AI関連	566	636	595	571
蓄電所関連	-	70	76	582
営業利益 (売上高比)	57 (10.2%)	93 (13.2%)	45 (6.8%)	252 (21.9%)

売上

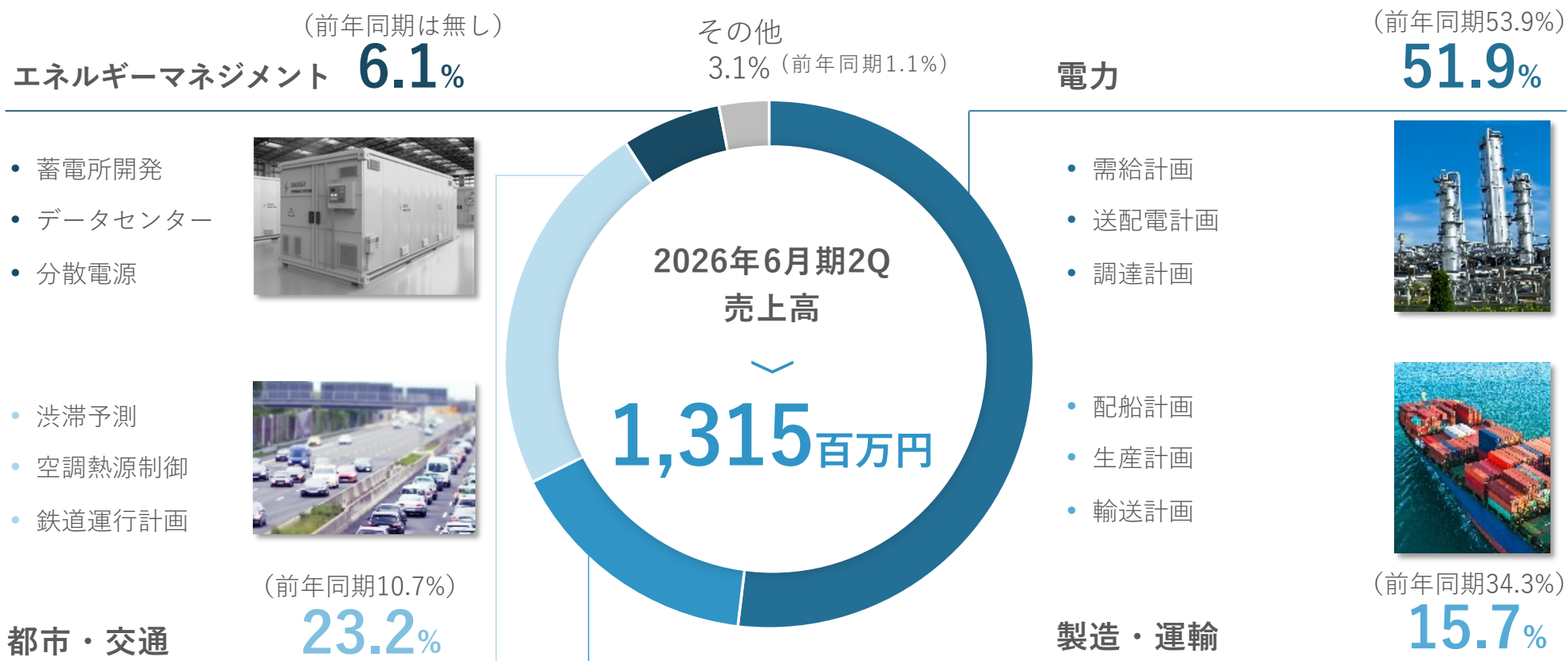


営業利益



ドメイン別の売上構成

鉄道会社向けの大型案件が順調に進捗し、
都市・交通分野の売上構成比が前年同期比で大きく増加。



AIのフロー型売上とストック型売上

フロー型売上の増加は電力・鉄道の大案件等が順調に進捗。
ストック型売上も着実にプロジェクト本番運用が進み増加。

フロー型売上

ストック型売上

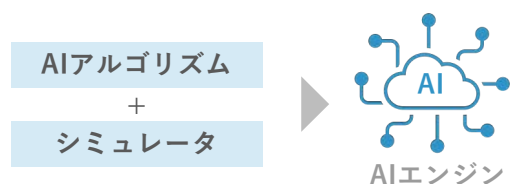
AI開発

システム開発

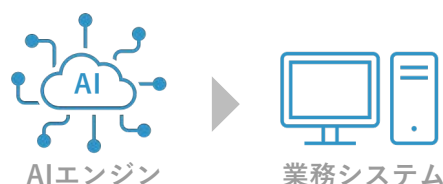
運用・サポート

具体的な
サービス

AI技術によるAIアルゴリズムと
シミュレータを組み合わせたもの
をAIエンジンとして開発



AIエンジンを搭載した業務アプリ
ケーションを顧客の業務システム
に組み込む



顧客がシステムを継続利用するた
めの機能（性能維持・監視・障害
対応）を年間契約で提供



売上高※

	合計	顧客平均
25/6期2Q	643 百万円	20.7 百万円
26/6期2Q	885 百万円	36.9 百万円
	+242 百万円	(+16.1 百万円)

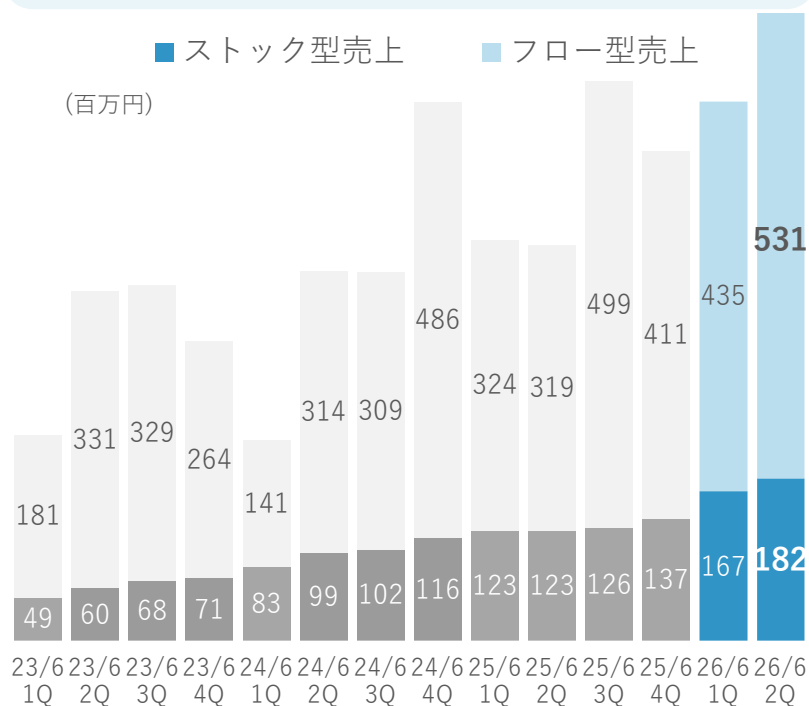
	合計	顧客平均
25/6期2Q	246 百万円	18.9 百万円
26/6期2Q	349 百万円	21.8 百万円
	+102 百万円	(+2.8 百万円)

※ 蓄電所関連の売上を除く

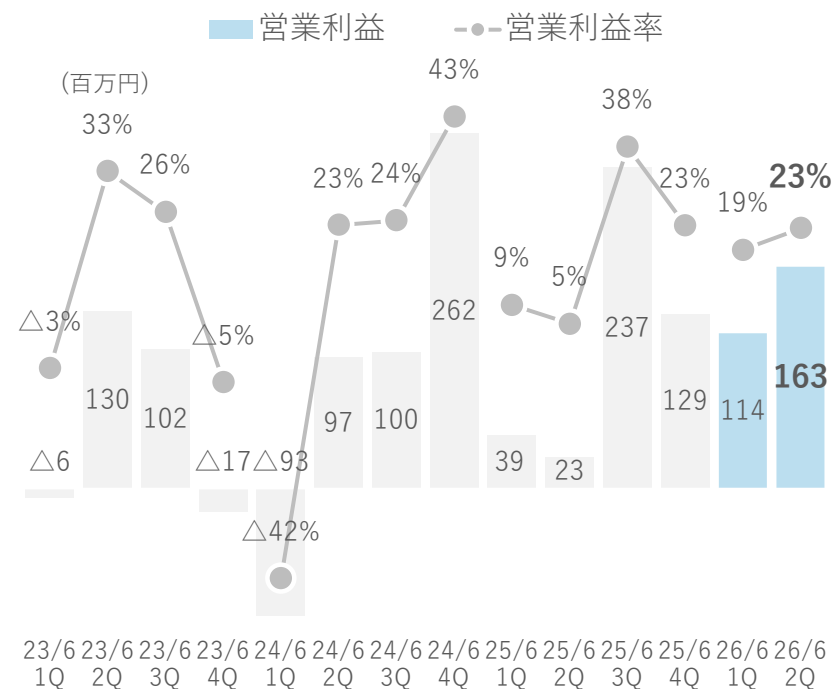
四半期業績推移

フロー型売上、ストック型売上ともに1Q比較で増加。
増収により営業費用の増加を吸収し増益。

● 四半期ごとの売上高



● 四半期ごとの営業利益と利益率



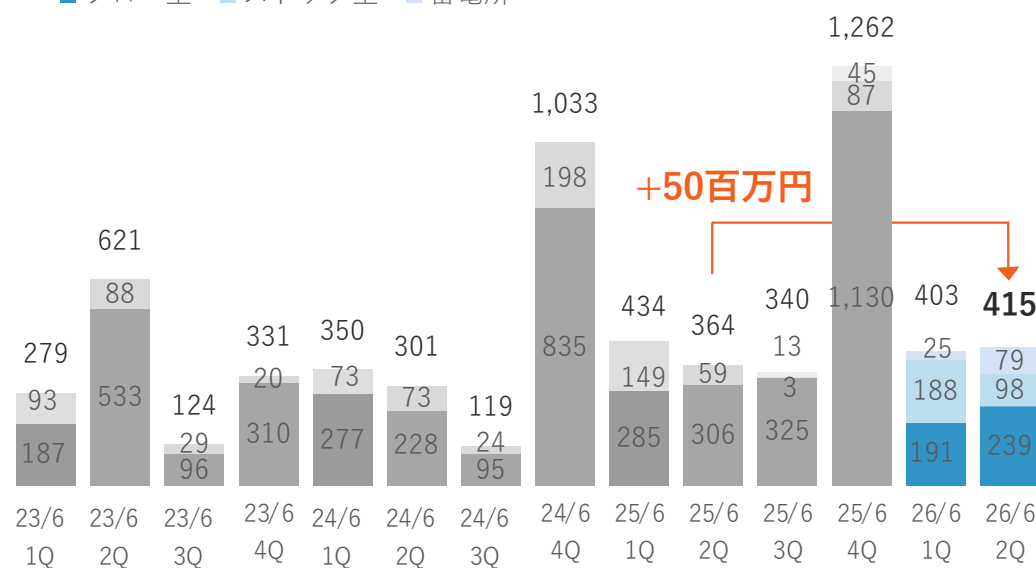
受注高と受注残高の推移

AI事業の受注額は季節性を含めて例年通りの傾向が続き、
受注残高はプロジェクトデリバリーの短縮で横這いに推移

受注高

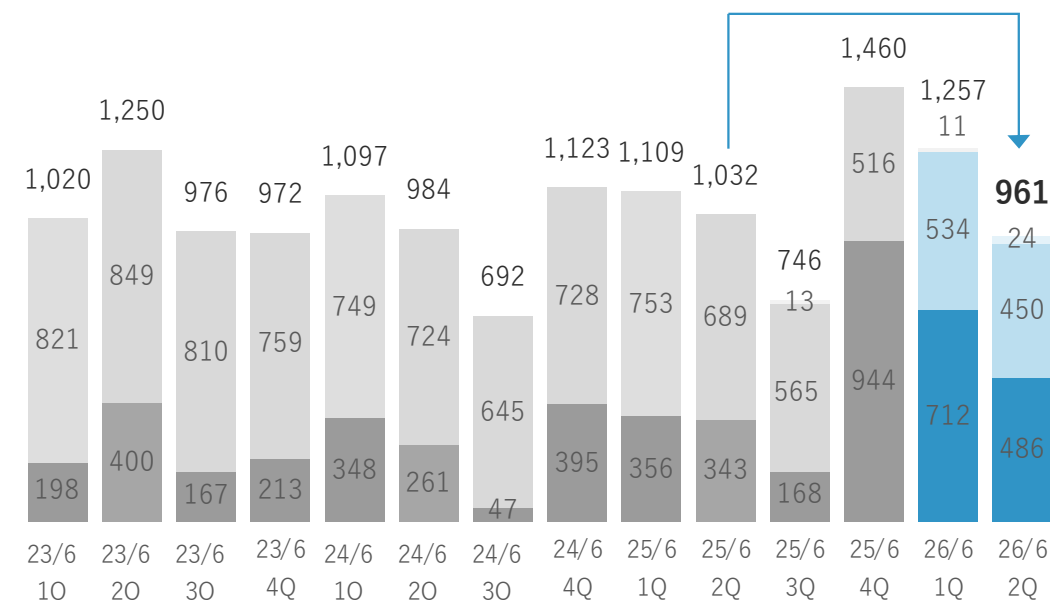
(百万円)

■ フロー型 ■ ストック型 ■ 蓄電所



受注残高

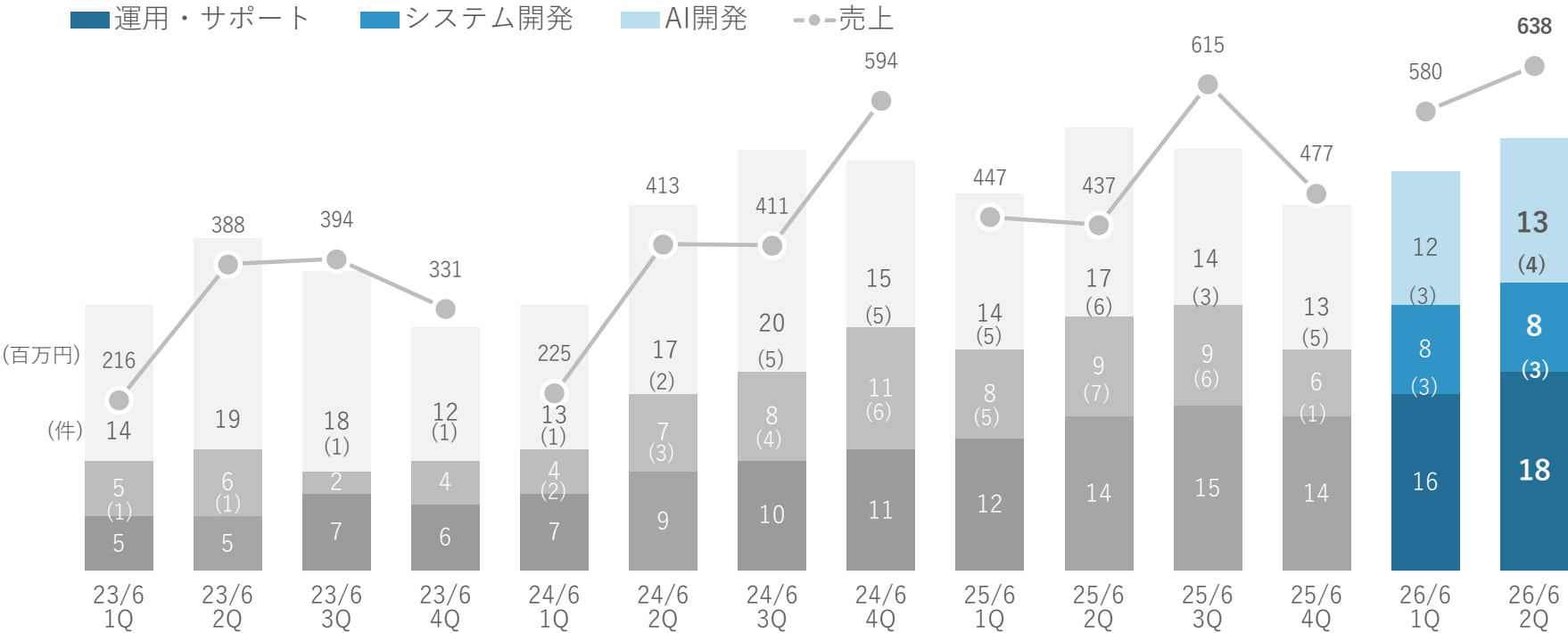
△71百万円



四半期ごとのAIプロジェクト数

プロジェクト稼働数の着実な積み上げに加え、
案件の大型化が進展したことで、売上高が伸長。

● 四半期ごとのサービス別のAIプロジェクト数と売上

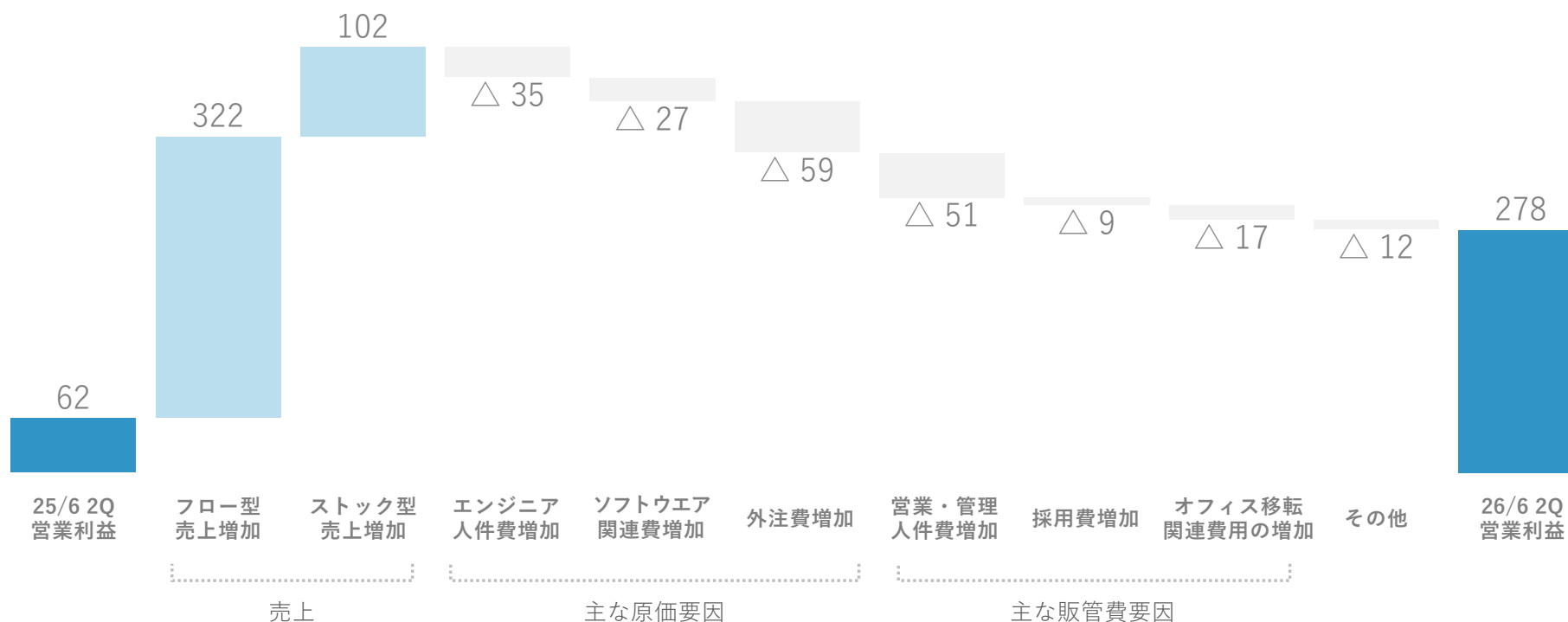


※ 括弧書きは、運用・サポートを開始した顧客に対するアップセル・クロスセルの件数

営業利益増減要因

エンジニアに加えて、営業部門の強化による人件費増加に対して、
売上高の増加が上回り、**営業利益**は前年同期から**215百万円増加**。

(百万円)

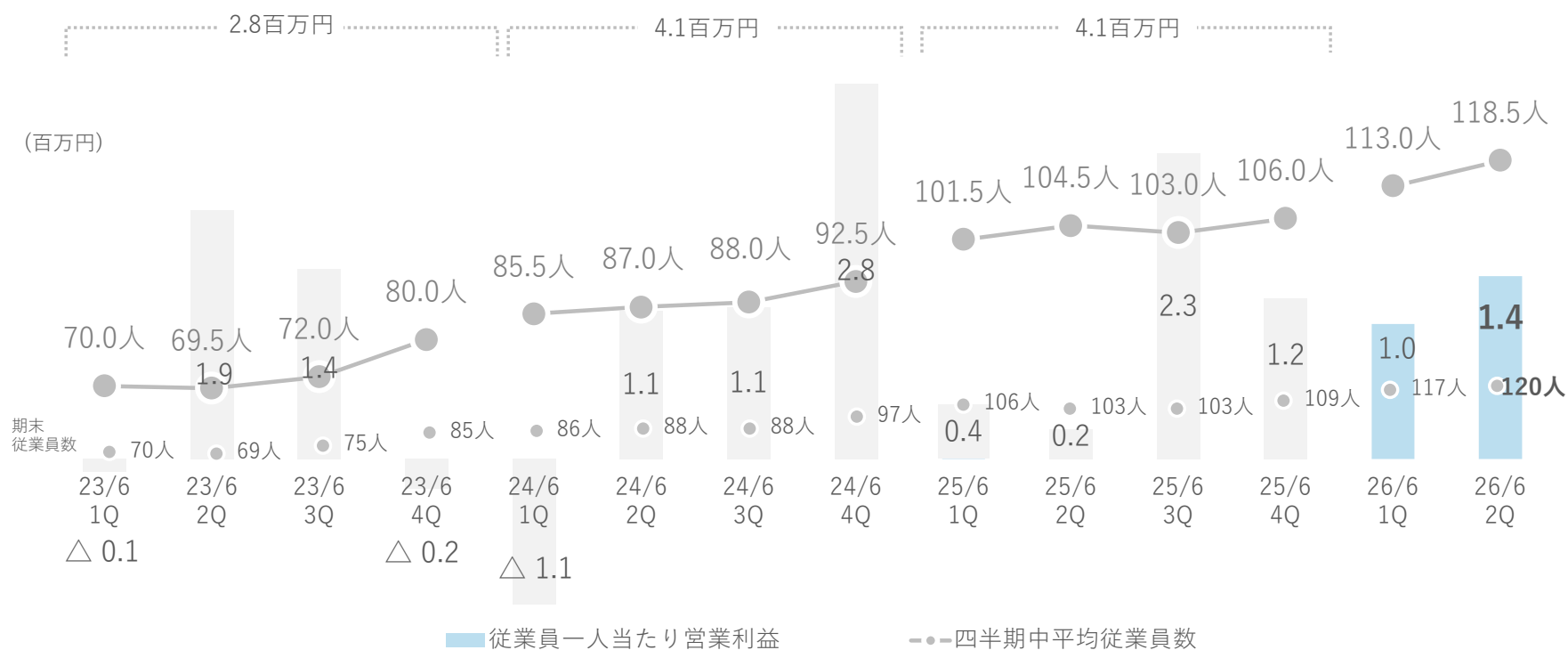


従業員一人当たり営業利益

前期末比で全社従業員は11人増（+10.1%）となるが
大幅な営業利益の増加により一人当たりの営業利益も増加。

● 四半期ごとの従業員一人当たり営業利益※と従業員数

※ 四半期営業利益 ÷ 四半期期首期末平均従業員数

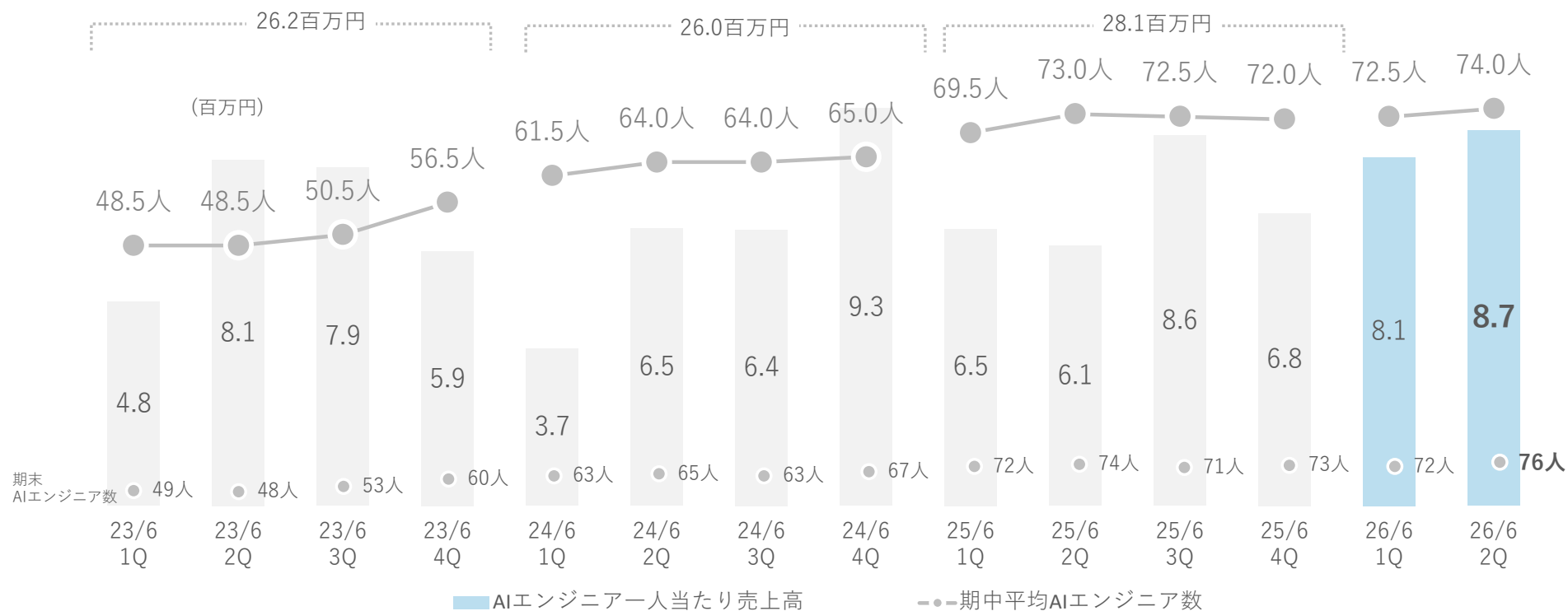


エンジニア一人当たり売上高

エンジニア数が増加する中で、売上も着実に増加。
生産性も1Q、2Q共に高い水準を維持。

● 四半期ごとのAIエンジニア一人当たり売上高※とAIエンジニア数

※ 四半期売上高 ÷ 四半期期首期末平均AIエンジニア数



主要な経営指標

顧客基盤の拡大により取引先数^{※1}を増やしつつ
電力、鉄道の大型案件で顧客平均売上^{※2}も増加

	26/6期中間期	25/6期中間期	前期比
売上高成長率	47.7%	39.5%	+8.2pt
営業利益率	21.1%	7.1%	+14.0pt
ストック型売上比率	26.6%	27.7%	△1.1pt
顧客平均売上 ^{※2}	35.5百万円	27.0百万円	+8.5百万円
主なサービス区分 ^{※3}	40.3百万円	30.4百万円	+9.8百万円
取引先数 ^{※1}	37社	33社	+ 4 社
主なサービス区分 ^{※3}	30社	29社	+ 1 社

※1 売上計上の対象となったエンドユーザ数 ※2 売上÷通期取引先数
※3 その他を除く、AI開発、システム開発、運用・サポートの3区分

貸借対照表

利益の堅調な増加により自己資本比率は90%弱とやや上昇
M&A含む事業拡大に合わせて最適な資本構成を目指す

(百万円)	26/6期中間期	25/6期末	前期比
資産	4,593	4,417	+4.0%
流動資産	4,189	4,162	+0.6%
現金及び預金	2,959	3,197	△7.5%
固定資産	403	254	+58.5%
負債	466	477	△2.3%
流動負債	466	477	△2.3%
固定負債	-	-	-
純資産	4,126	3,940	+4.7%
自己資本比率	89.8%	89.2%	+0.6pt

■ 26/6期2Q決算概況

■ **近況報告**

■ マクロ環境

■ 成長戦略

■ 事業等説明

「ReNom Railway」機能拡張アップデート開始

鉄道分野向け最適化ソリューション「ReNom Railway」 新たな機能拡張に向けた開発開始

ReNom Railway

《全体イメージ》



鉄道の輸送計画業務は、列車運用、車両運用、乗務員運用、構内作業など多岐にわたる要素を扱い、膨大な制約条件を満たす必要がある高度な業務です。その多くが熟練担当者の経験に依存し、データ準備や計画立案に多くの工数を要してきました。今回の「ReNom Railway」アップデートでは、前段階のデータ準備を AI が自動化・統合することで、より包括的な鉄道輸送計画最適化ソリューションへと進化を目指します。

3つの重点アップデート機能

AI-OCRによる入力データの自動化・効率化

ダイヤ情報や指示書を自動構造化。計画立案プロセスを大幅短縮

予測機能の新搭載（不確実性への対応）

遅延等の不確実なシナリオを作成・インプットし柔軟な計画を立案

乗務員運用計画の最適化

乗務負荷を平準化しつつ、労働基準を遵守した交番計画を自動生成

AI配船計画最適化システム本格運用

トクヤマと当社、国内初となる ※1 「天候考慮型AI配船計画システム」の開発完了、本格運用開始



セメント専用船「徳継丸」

トクヤマでは、全国40カ所以上に及ぶ各拠点へのセメント輸送において、在庫状況や天候、安全在庫の確保、港湾条件など、さまざまな制約を総合的に考慮する必要があり、これまで高度な専門性を要する配船計画を、熟練の担当者が立案してきました。こうした複雑な業務において、さらなる業務効率化と精度向上を模索していました。

ReNom VESSEL

天候リスクを踏まえた最適な配船計画を実現

天候を考慮し、出港時刻を調整/代替ルートを選択

年間**5%**の費用低減見込み

波高

風速



導入効果

■ 輸送コストの削減

燃料費や港湾関連費用などの削減高が見込まれる（運用開始前比較で年間5%低減見込み）。

■ CO2排出量の削減

燃料使用量の削減に伴い、CO2排出量の低減が期待される。

■ 船舶維持コストの削減

需要動向に応じて、保有船舶の最適隻数を高精度にシミュレートすることで、船舶維持コストを削減。

■ 配船の業務改善

需要動向に応じて、最適隻数を高精度にシミュレートすることで、船舶維持コストを削減

※1：両社調べ

業界特化型生成AI「GeNom」提供開始

各産業の制度・業務に特化した生成AI「GeNom（ジェノム）」 第一弾は電力業界向け「GeNom for Energy」の提供開始



電力業界特化型生成AI

 **GeNom**
for Energy
誕生

複雑な業界の議論・制度の理解を、一瞬で。

技術共創室新設・プロジェクト本格研究フェーズへ移行

「全体最適」で社会をデザインする「技術共創室」を新設

- 「部分最適」から産業を横断した「全体最適」を実現。「数理モデル」で日本の産業を底上げ。
 - 業界を超えた「共創」の実装
単一企業・同一業界の枠を超え、自動車×電力など業界を超えた異業種間の連携を「全体最適」でデザインし、未来の社会システムを構築需給、配船計画、交通計画などの複雑な組合せ最適化問題を高速解決。
 - 数理モデルによる課題解決
「数理モデル」という共通言語で異なる業界の課題を統合、AIによる意思決定と現場運用を繋ぎ、既存の枠組みにない解決策を創出しあらゆる産業で社会実装を推進する。
 - インフラの変革による経済の活性化
全作業の土台となる「インフラ」のコスト低減や最適化を推進。日本の産業全体を活気づけ、経済と人材が共に豊かになる好循環をリードする。

量子技術を活用したVPP需給調整：NEDO本格研究フェーズへ移行

- 不確実性を克服する「リスクヘッジ型量子古典確率最適化」の開発・実証
 - 開発進捗とフェーズ移行
初期検証で100万通り超のシナリオ処理への有効性を実証し、NEDOの本各研究フェーズへ移行。
 - 量子・古典ハイブリッド手法の確立
世界初の量子技術×古典技術の融合により、大規模VPPでの計算速度と精度の優位性を検証。
 - 社会実装に向けたロードマップ
2027年3月に研究開発を完了し、2029年の社会実装を通じて電力供給の安定と脱炭素へ貢献。

■ 26/6期2Q決算概況

■ 近況報告

■ **マクロ環境**

■ 成長戦略

■ 事業等説明

今後の電力需要

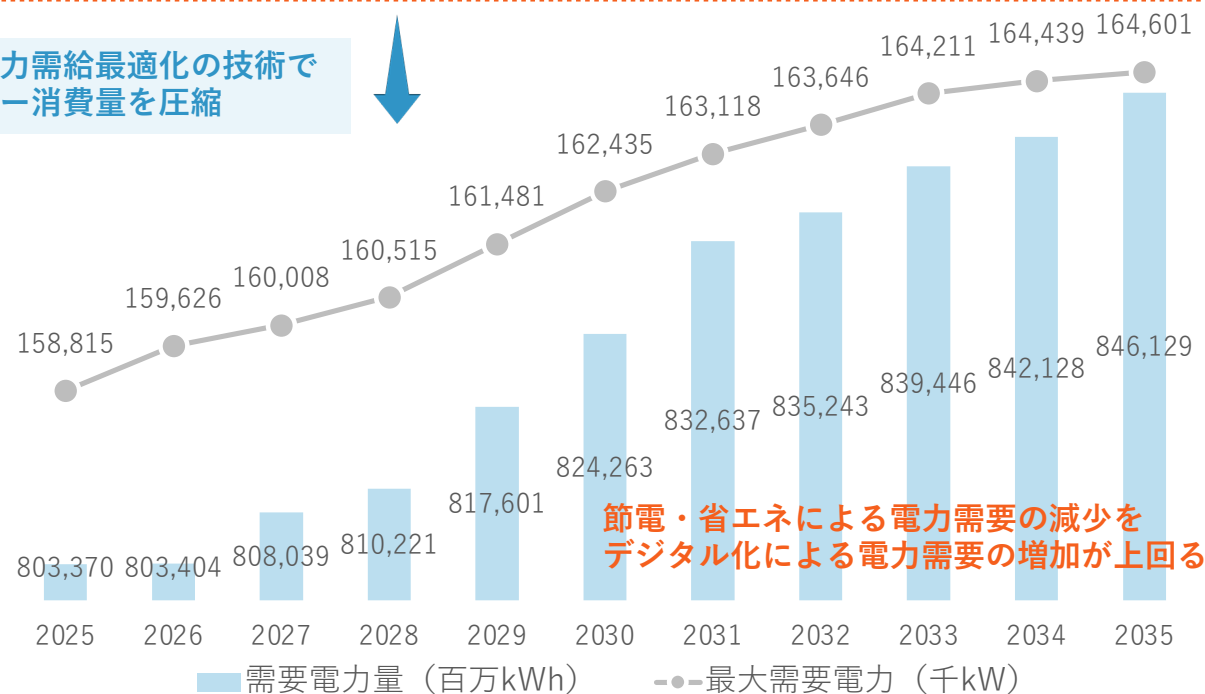
社会全体のデジタル化の加速に伴うデータセンターの拡張や
半導体工場の新設が続き、構造的な電力需要の増大が見込まれる

2035年までに**需要電力量は500億kWh超増加**

2035年度までの最大需要電力と需要電力量(使用端)

産業競争力の強化や経済成長のため安定的かつ効率的な電力の供給体制が求められている

当社の電力需給最適化の技術で
エネルギー消費量を圧縮



節電・省エネによる電力需要の減少を
デジタル化による電力需要の増加が上回る

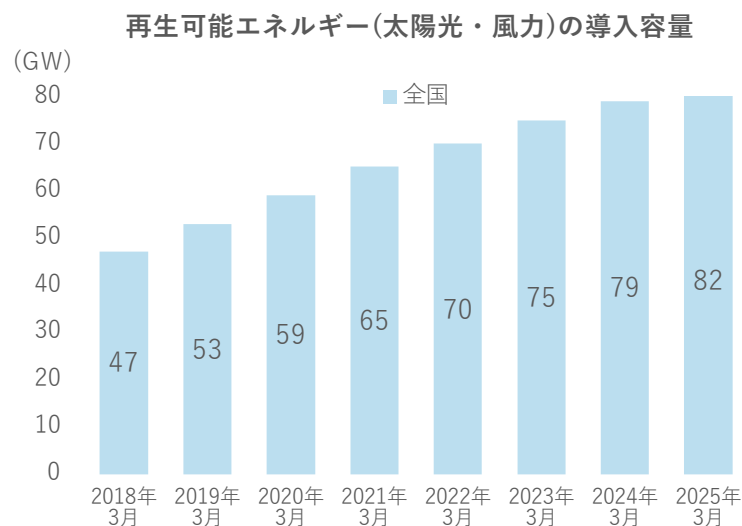
電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定(2026年度)」より当社作成

© 2026 GRID Inc.

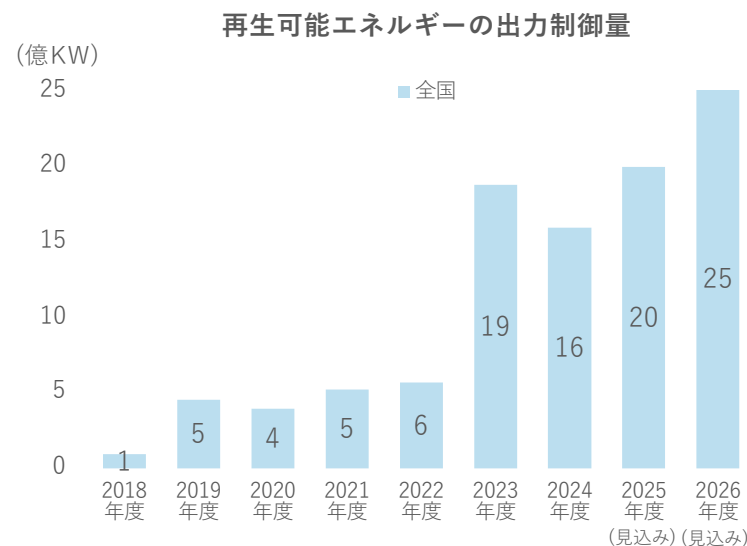
今後の再生エネルギー

再生可能エネルギーの導入量だけでなく、出力制御量も増加
2040年度には電源構成の4～5割が再生可能エネルギーの見通し※
経済的で安定的なエネルギー需給体制に向けて蓄電池は必須

※資源エネルギー庁「今後の再生可能エネルギー政策について」2025年6月3日公表



資源エネルギー庁「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法情報公表用ウェブサイト」より当社作成

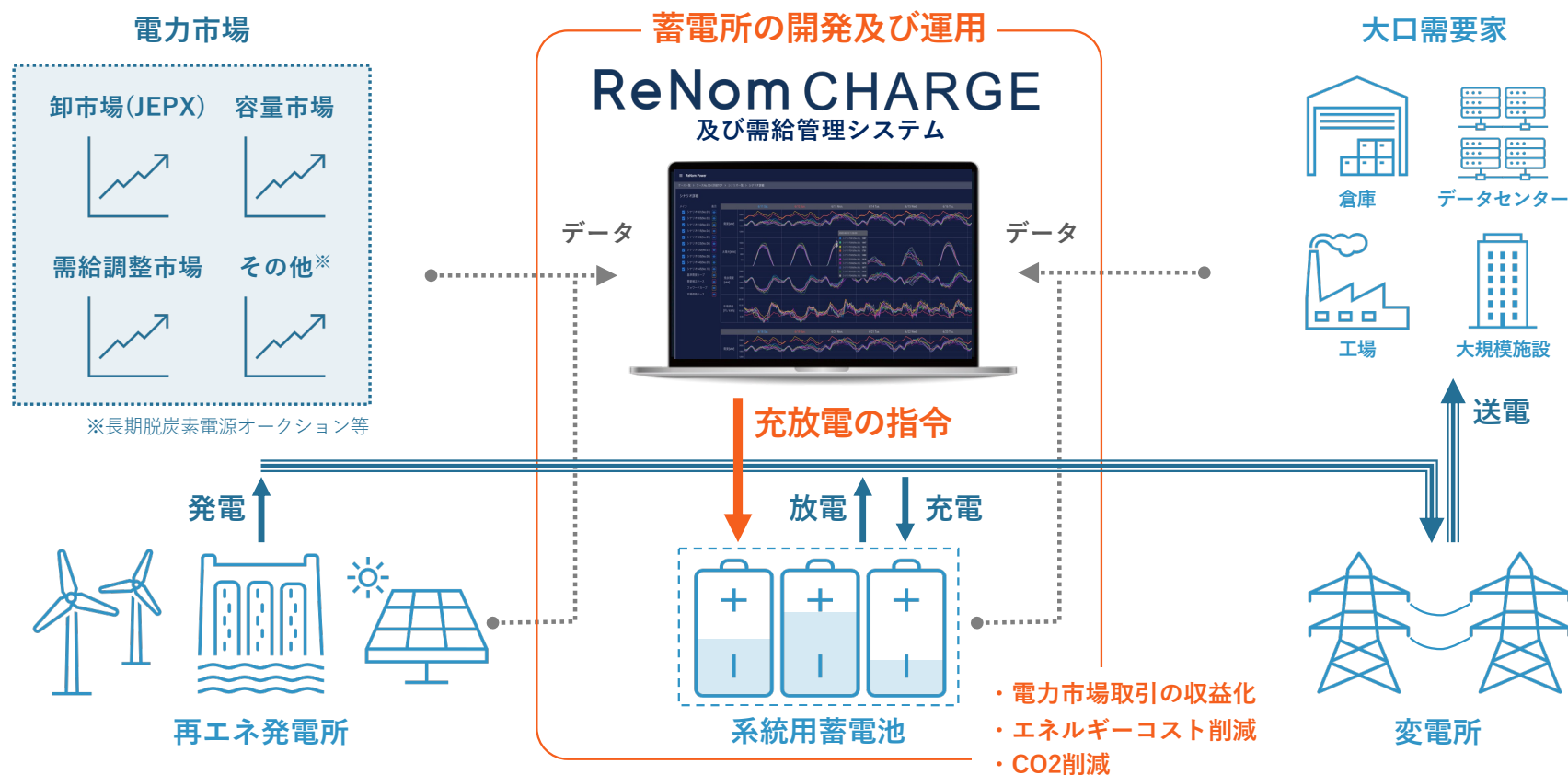


資源エネルギー庁「再生可能エネルギーの出力制御に関する長期見通し等について」2025年6月27日公表、「再生可能エネルギーの出力制御に関する短期見通し等について」2025年1月23日公表、「再生可能エネルギー出力制御の短期見通し等について」2025年12月24日公表、より当社作成

今後も増加してく再生可能エネルギーに対して、出力を制御する代わりに蓄電池に充電し
再生可能エネルギーの有効活用を促進して、経済的かつ安定的なエネルギーの需給体制を構築

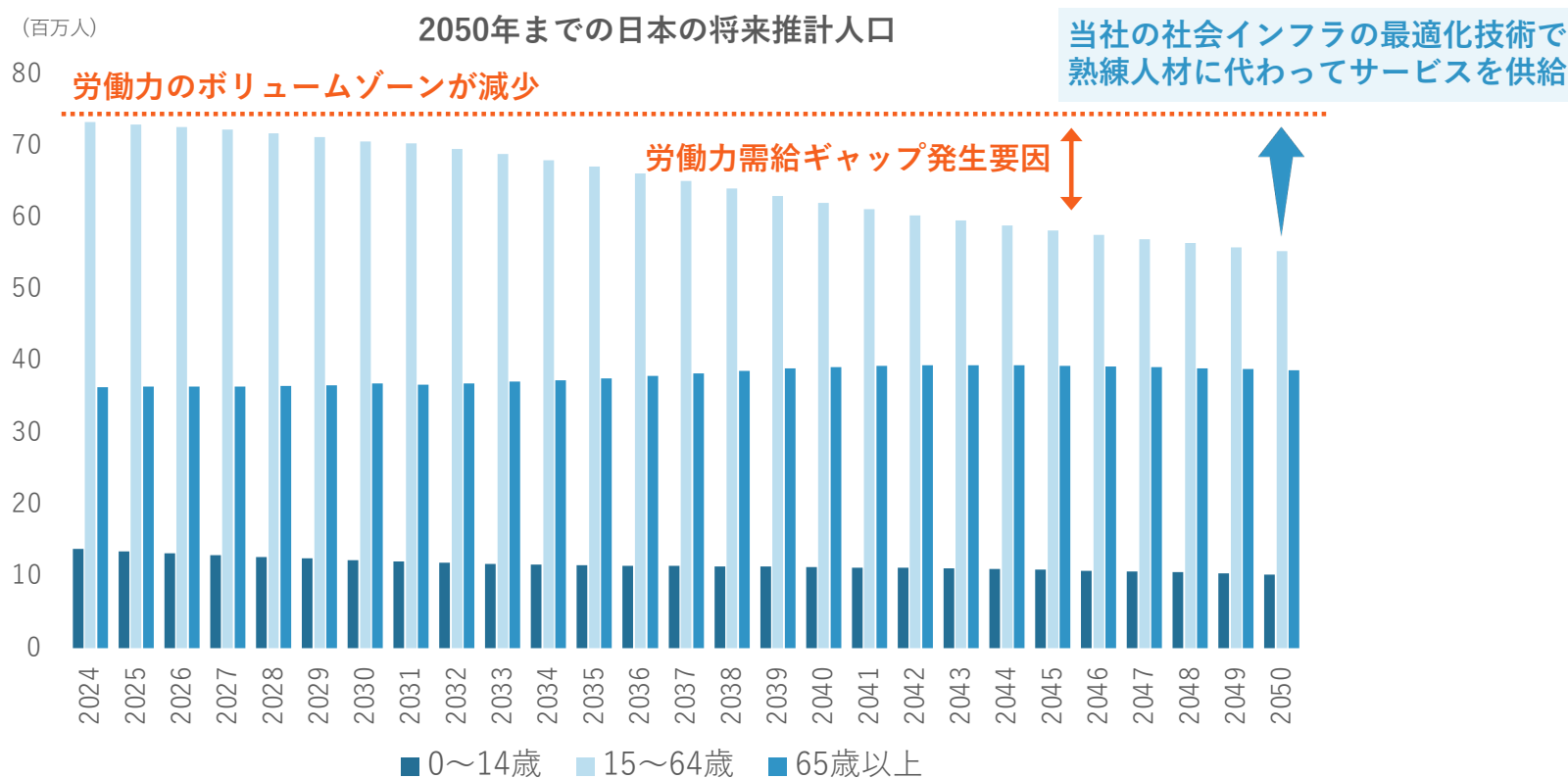
当社の最適化技術の活用

系統用蓄電池の充放電の最適化を実現する技術とともに 蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



今後の労働人口

65歳以上の高齢者人口が微増である一方
15～64歳の生産年齢人口は2040年までに**1,100万人以上減少**



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」より当社作成



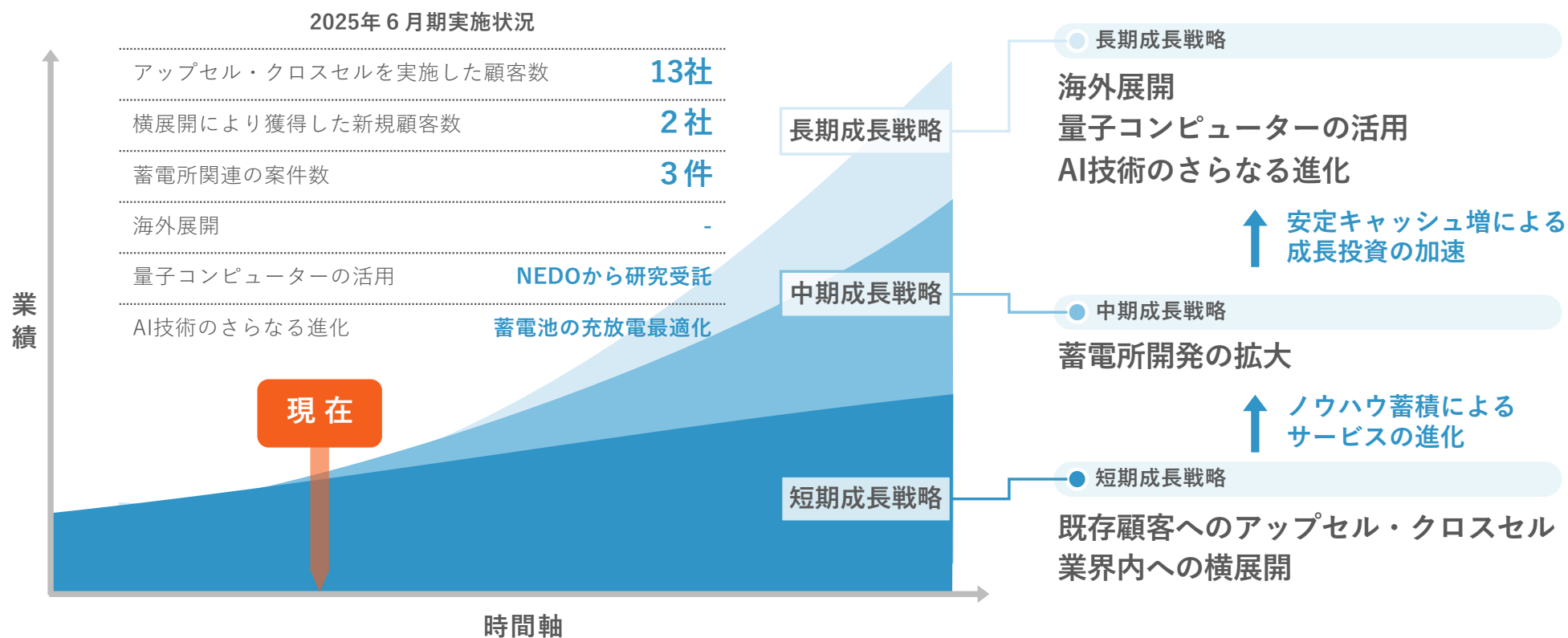
安定供給を支える人たちを支えるイノベーション

INFRASTRUCTURE + LIFE + INNOVATION

- 26/6期2Q決算概況
- 近況報告
- マクロ環境
- **成長戦略**
- 事業等説明

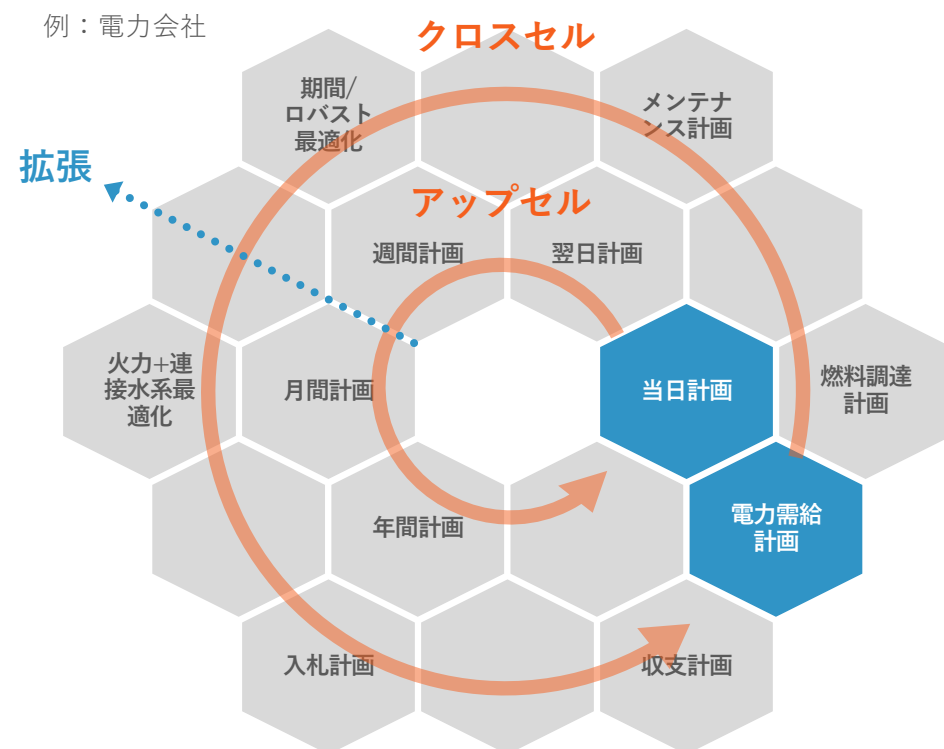
成長イメージ

上場による調達資金を開発体制等の強化へ投資 サービスの進化で、事業拡大の加速と持続的な成長を目指す



短期成長戦略：アップセル・クロスセル

企業内の多種多様な計画へ最適化を拡張し 戦略的に顧客生涯価値を最大化



日次計画など短期計画の
サービス提供から開始



週次・月次・年次計画などの
長期計画やその他の種類の計画へ拡大



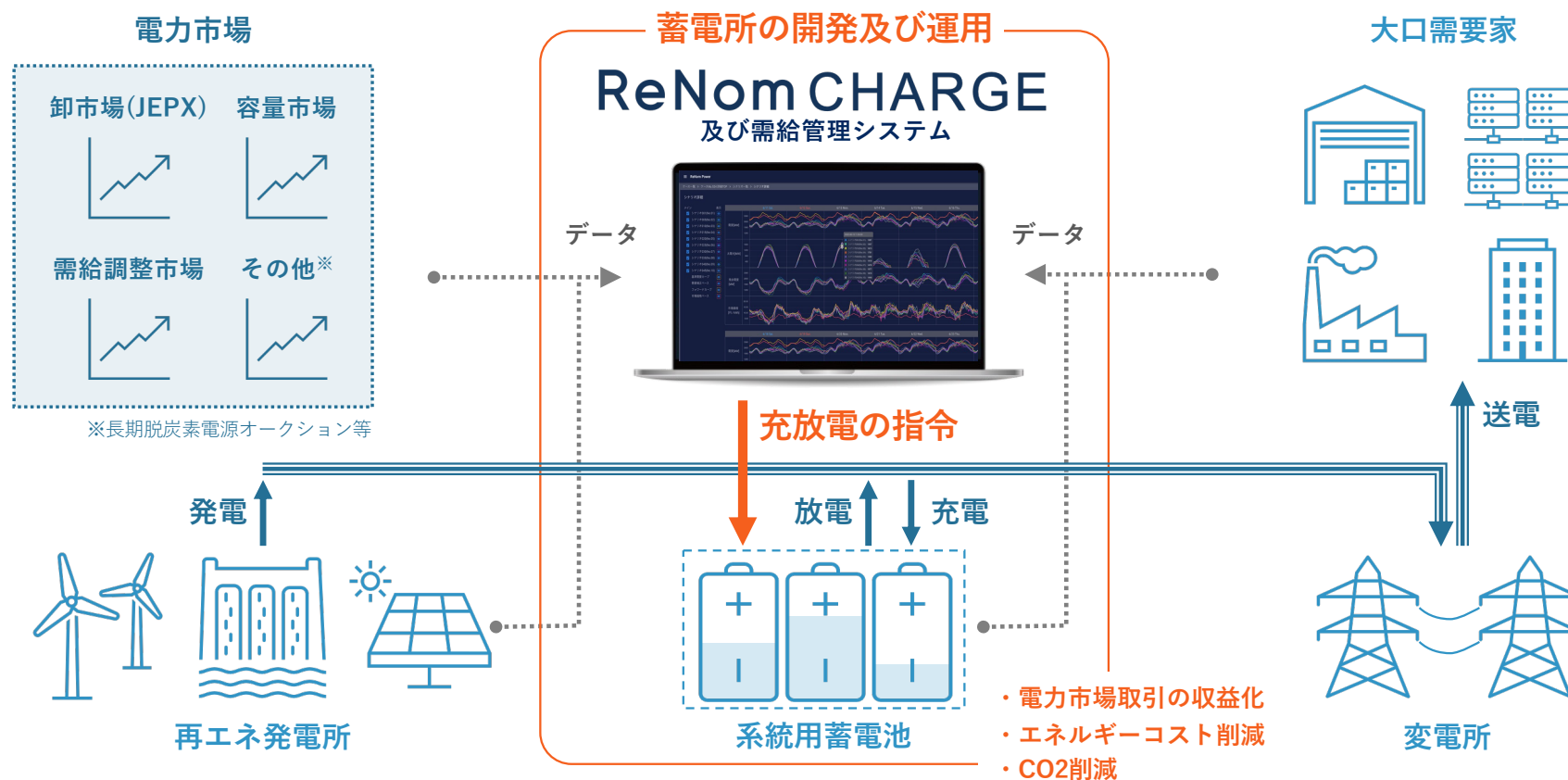
最適化する計画の増加に伴い
ステークホルダーも増加



新たなビジネスチャンスの創出

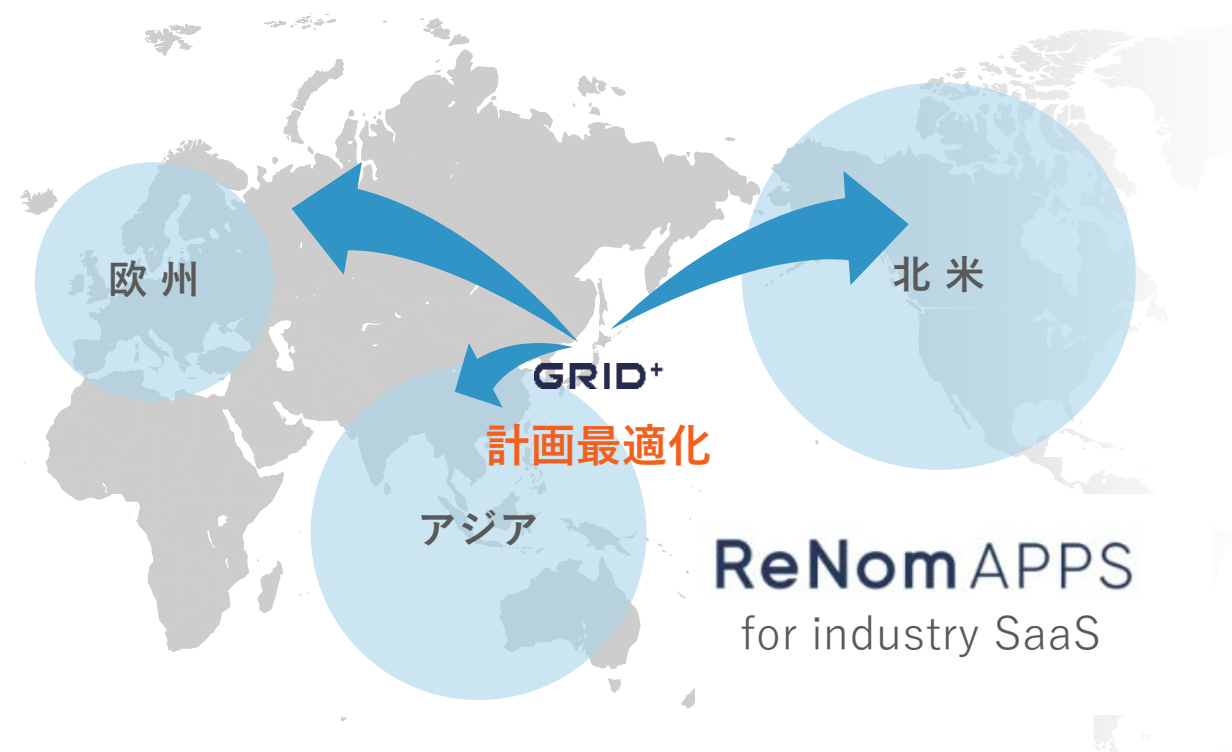
中期成長戦略：蓄電池事業の拡大

系統用蓄電池の**充放電の最適化**を実現するとともに
蓄電所の開発から運用までのワンストップサービスを提供



長期成長戦略：海外展開

社会インフラの業務オペレーションは**世界共通**
計画最適化の領域は海外においても**ブルーオーシャン**



特定産業向けの**アプリケーション**
を強みに海外展開

国内の実績をROI※として明示することで
海外展開への可能性を強化

特定産業向けのアプリケーション
ReNomAPPSにより海外ビジネスにおける
デリバリーリスクの低減を図る

※ ROIとは、return on investmentの略で、投じた費用に対してどれだけの利益を上げられるかを示す指標

実ビジネスの課題解決の発展を目指し 量子アルゴリズムの研究開発を加速

2017~

量子アルゴリズムの研究開発を開始

2018~

量子アルゴリズムに関する論文を発表

2021~

量子アルゴリズムに関する特許を申請

2024~

量子コンピュータ導入に向けた状況

グリッドの主な研究成果

量子モンテカルロ

量子コンピュータ上で乱数を発生させ、複数回シミュレーションを行ない、解を確率的に推定するアルゴリズムを開発

ハイブリッド量子古典動的計画法

メモリの制限やハードウェアのノイズによる計算能力の制限解消に有効な、古典コンピュータと量子コンピュータのハイブリッド型量子回路を開発

過学習しにくい性質を実証

機械学習の精度向上のボトルネックとなっている「過学習」が、量子機械学習器において過学習しにくいという性質を詳細な数値実験を通して世界で初めて実証

仮想発電所需給調整におけるリスクヘッジ型量子古典確率最適化手法の開発

量子回路でVPPの制御を用いて実現する世界初の研究

本番運用に向けて
研究開発を加速

2024年度「量子・古典ハイブリッド技術のサイバー・フィジカル開発事業」
採択決定



- 26/6期2Q決算概況
- 近況報告
- マクロ環境
- 成長戦略
- **事業等説明**

会社概要

会社名	株式会社 グリッド GRID Inc.
代表取締役	曾我部 完
設立	2009年10月
資本金	54百万円（2025年12月31日現在）
事業内容	人工知能を用いたシステムの開発・販売・コンサルティング・保守・運用サポート業務 等
従業員数	120名（2025年12月31日現在）
本社所在地	東京都港区北青山3-6-7 明治安田生命青山パラシオ4F

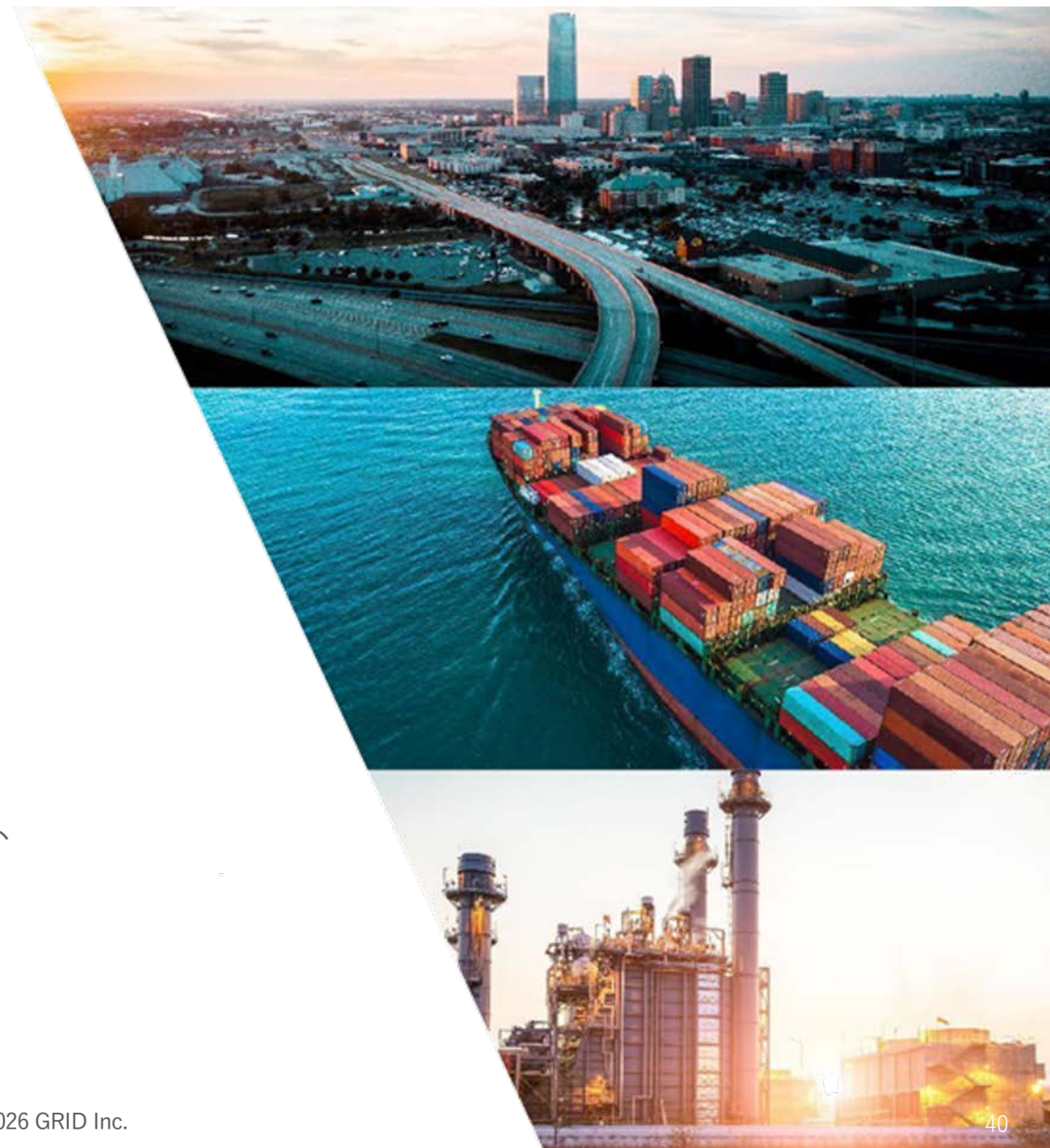


Mission

インフラと社会を、 その先へ

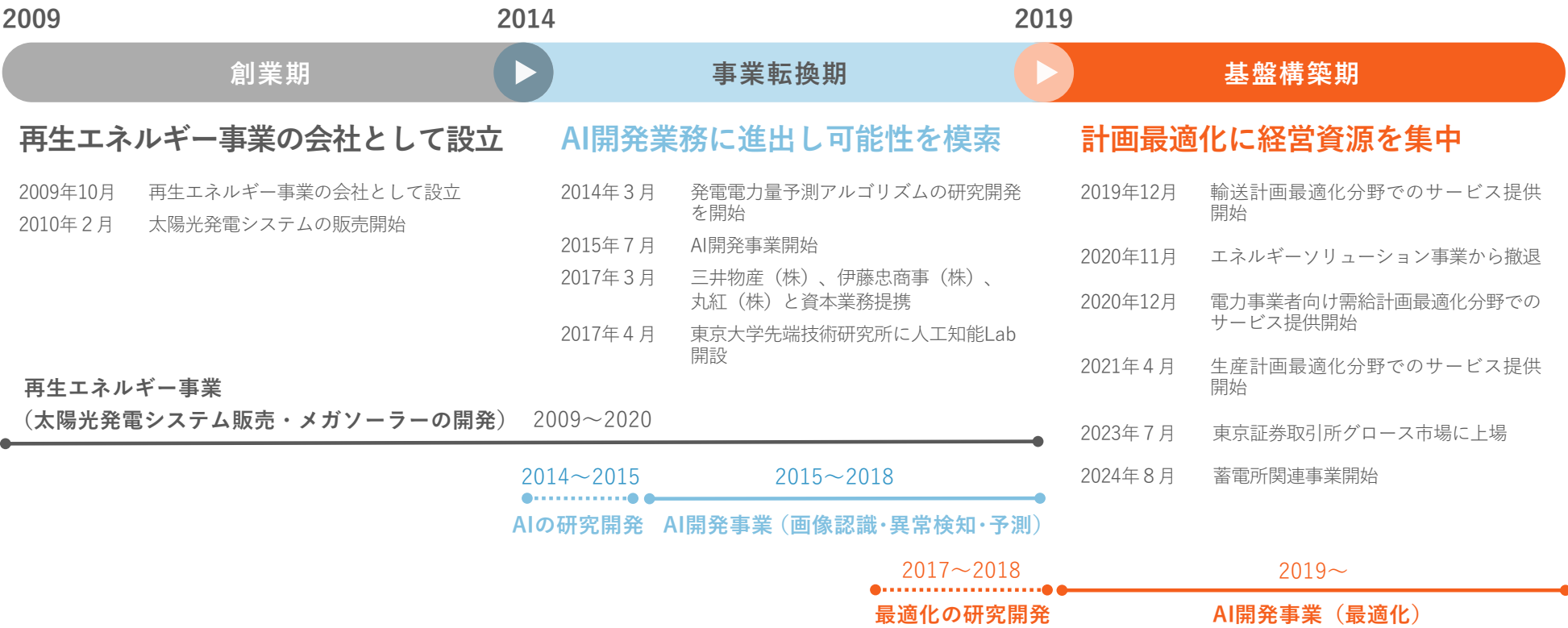
私たちは、アルゴリズムとテクノロジーで
これまでのインフラを再定義し、
未来の社会を支えるインフラを創造します。

グリッドのテクノロジーはインフラを進化させ、
持続可能な社会づくりに貢献します。



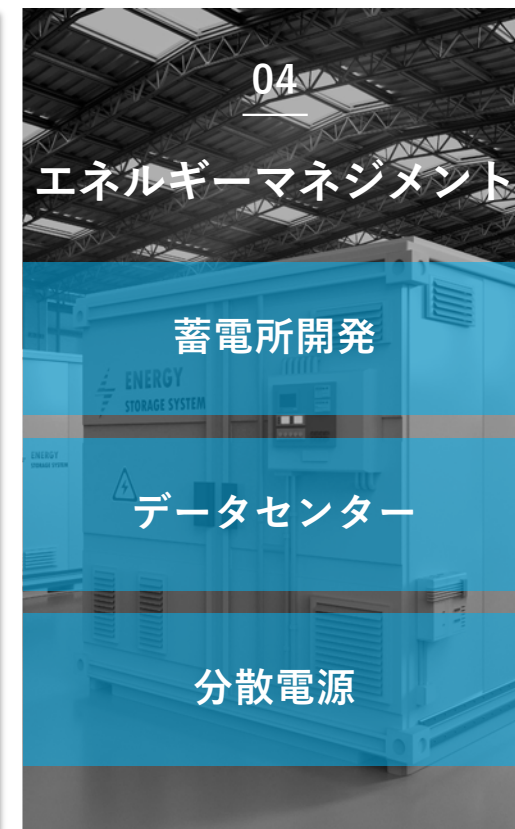
沿革

再生エネルギー事業の会社として設立。2014年にAI開発事業に事業を転換し、2019年より計画最適化に経営資源を集中



重点ドメイン

AI × 最適化 を社会インフラの重点ドメインに集中して展開



社会インフラのオペレーションを最適化するAIエンジンの開発

Before 人による計画業務（例）



熟練人材

組合せ 1シナリオ × 1計画
計画作成時間 数時間～数日間
計画結果 実績で事後確認

After AIエンジンによる最適化技術（例）



AIエンジン

組合せ 複数シナリオ × 複数計画
計画作成時間 数分
計画結果 シミュレータで事前確認

AIエンジンを搭載した業務システムを提供

顧客の業務システムに当社の業務システムを組み込み、計画最適化を実現

業種ごとのシステム



電力システムアプリ & APIs



配船計画アプリ & APIs



生産計画アプリ & APIs



鉄道計画アプリ & APIs



業務システム画面

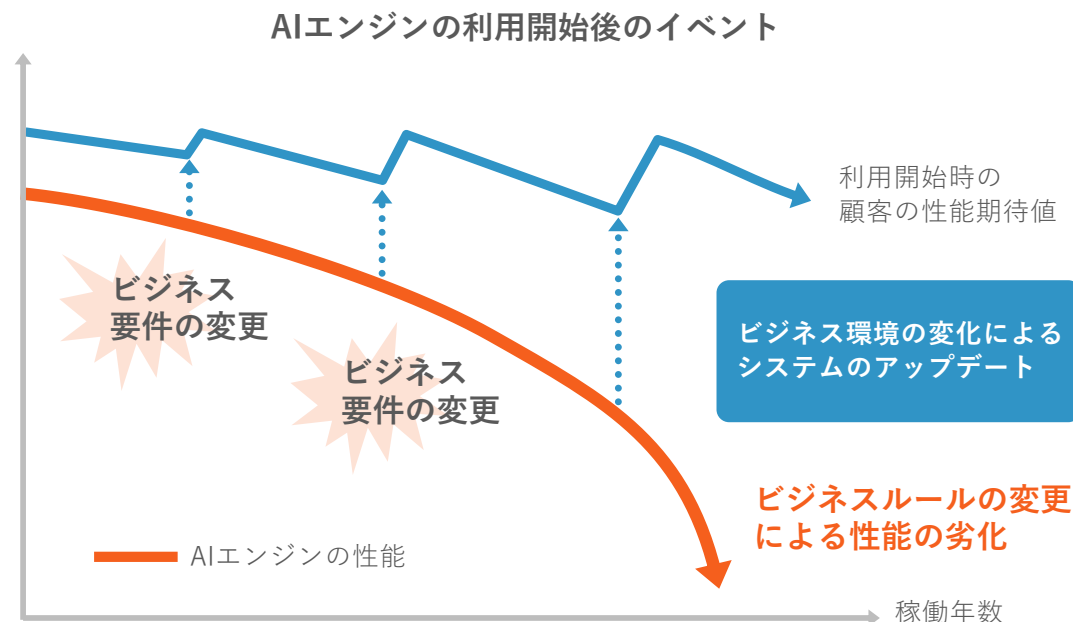


当社が**社会実装**する最適化 ▶ 電力需給計画、送配電計画、配船計画、輸送計画、生産計画、鉄道計画等

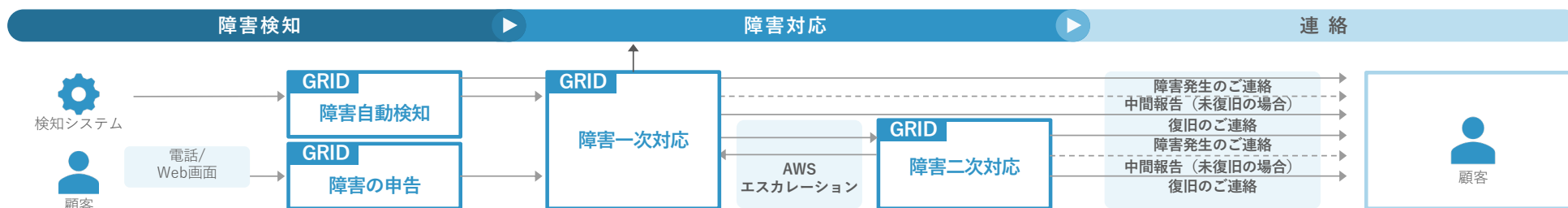
事業内容 運用・サポート

AIエンジンの性能維持 障害監視・対応を行う 運用・サポート

顧客のビジネス要件の変化やデータの質の変化により、AIエンジンは性能が劣化する可能性があるため、性能を維持しつつ顧客がシステムを利用し続けられるよう、障害監視・対応を行うとともにAIエンジンのチューニングを行うサービスを年間契約として提供



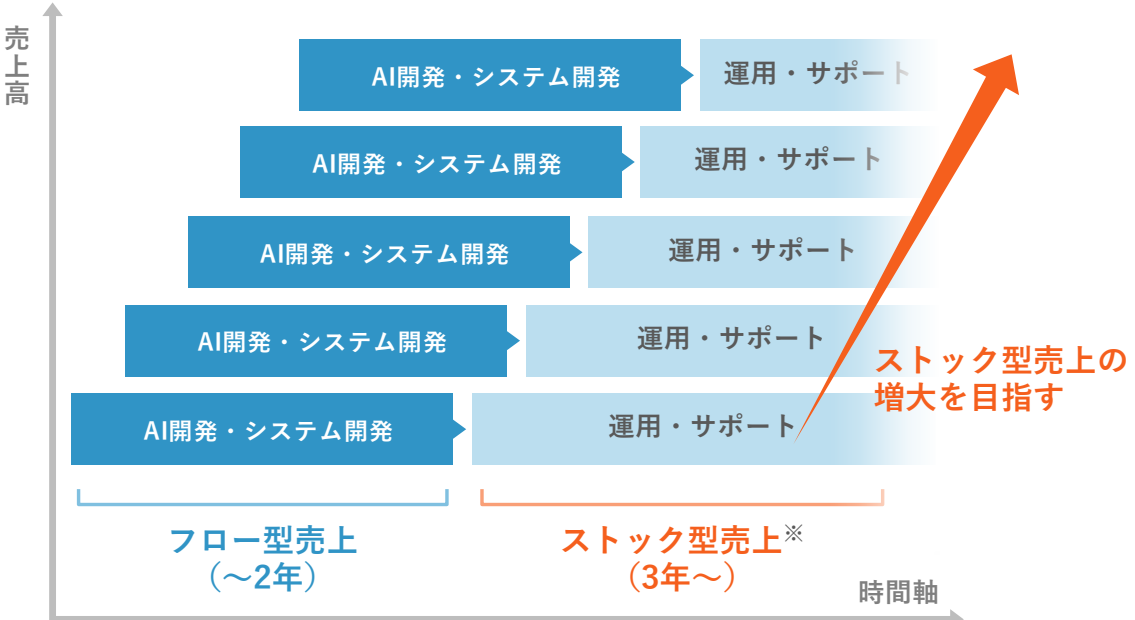
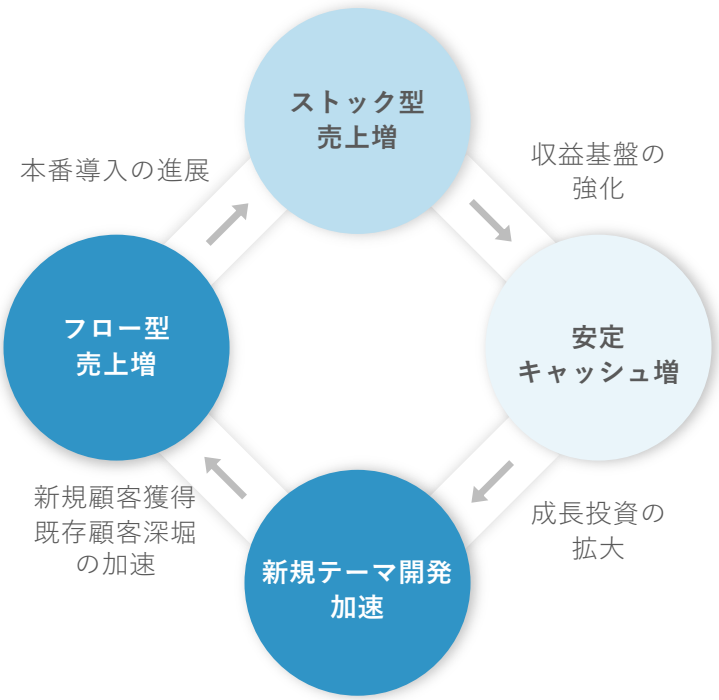
障害対応フロー



収益構造

フロー型売上の積上げにより、ストック型売上进行継続的に拡大

● 当社の収益構造イメージ



※ 契約期間は顧客ごとに異なり、再契約により契約期間延長を行う

25/6期 2Q	643 百万円	246 百万円
26/6期 2Q	885 百万円※	349 百万円

※ 蓄電所関連の売上を除く

© 2026 GRID Inc.

コアテクノロジー

デジタルツインとAIアルゴリズムの融合による最適化技術

現実世界の**ビジネスルール**や**物理法則**をデジタル空間に再現し
ビッグデータを用いず※、**AIアルゴリズム**で計画を最適化する



※ AIエンジン内のシミュレータが顧客のビジネス環境を再現してパラメータ値の入力でデータを生成できるため、ビッグデータが不要

ReNomAPPSによる横展開

電力・配船・製造・鉄道をはじめ 特定産業向けにアプリケーションを投入し、横展開を加速

ReNomAPPS
for industry SaaS

POWER

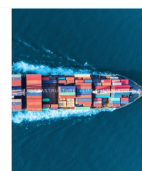
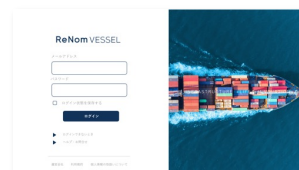
電力



日々変動する需要に対して様々なシナリオを描き、最適な需給計画を自動で立案

VESSEL

配船



日々変動する状況に対して最適な運行計画を自動で立案

SCM

サプライ
チェーン



企業のサプライチェーンを調達から生産、物流、消費までをつなぎ、最適な生産計画、物流計画を立案

RAILWAY

鉄道



車両の運用や構内作業など鉄道輸送に関する様々な計画を自動で立案

社会インフラ出身の エンジニアによる 豊富な業務知識

当社は、業務知識をエンジニアのコア・コンピタンスとし、それにデータサイエンティストやITエンジニアの能力を付加することで他社にはない人材戦略を展開

最適化のエンジニア数は 約70名と国内最大級



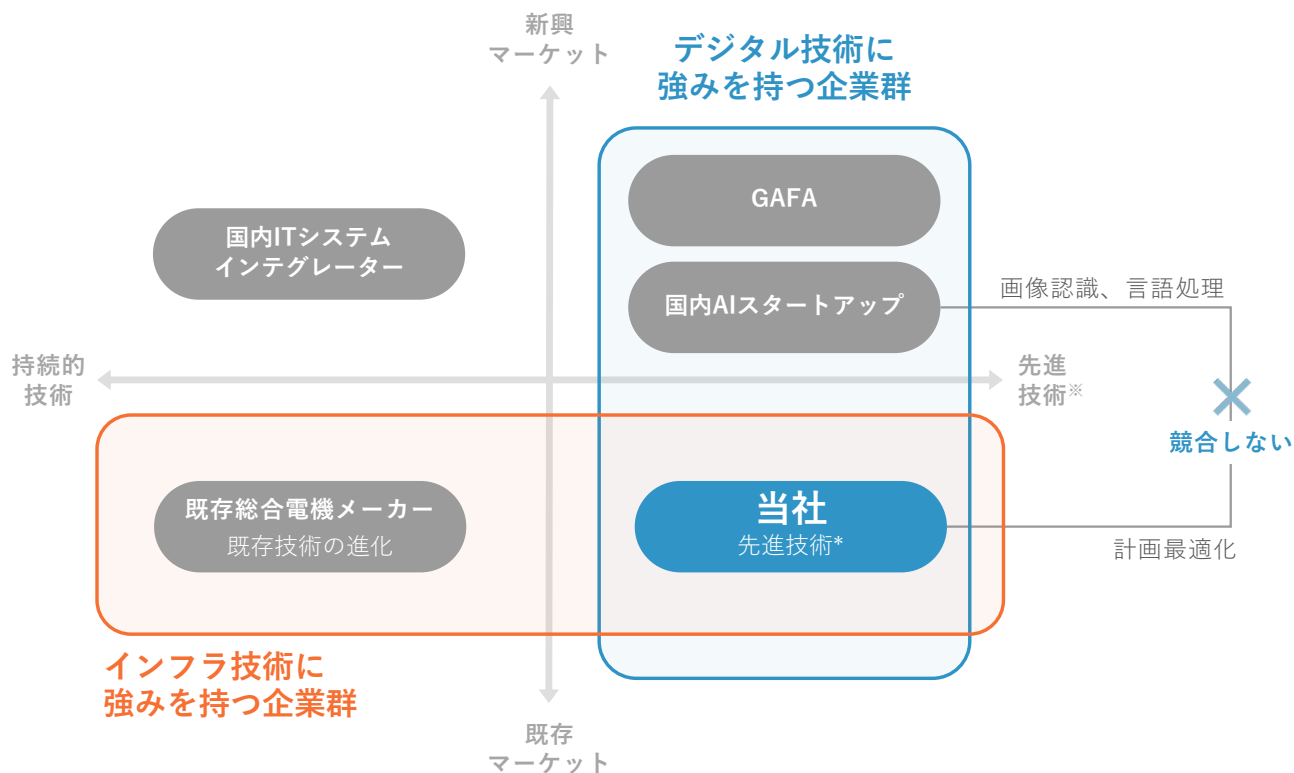
ポジショニング

社会インフラ × 最適化による差別化と集中で 競合が少ない独自のポジションを確立

当社の競合は、AIスタートアップではなく
国内の歴史ある**巨大な総合電機メーカー**

当社独自のソリューションである
数理最適やメタヒューリスティクス※に
最新AI技術を組み合わせたAIアルゴリズムと
製品販売を伴わないサービス提供により
技術面、価格面ともに**優位性**を確保

※ メタヒューリスティクスとは、現実空間において膨大な
組合せが発生する最適化問題を解くための経験的手法
(ヒューリスティクス)を有機的に結合させたアルゴリズム



インフラ技術に
強みを持つ企業群

※ AIを使った技術であり、既存技術と比較して高い優位性のある技術

© 2026 GRID Inc.

免責事項

本資料の取扱いについて

本資料に含まれる将来予想に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。これらは、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大きく異なる場合があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれていますが、これらに限られるものではありません。